

横浜市立折本小学校



# 学校だより

令和5年11月30日

12月号

折本小学校

HP



## ニーズに合わせて

副校長 白井 亮

傘が最初に登場したのは4000年も昔になるそうです。骨と布という大まかな構造は今も昔も変わっていません。ただ、進化はしています。初期の傘は現在のように閉じることができず、開閉式の傘ができたのは13世紀ごろになってとか。しかも雨よけではなく、日傘として使用されていました。18世紀になっても、とある紳士が雨の日に傘をさしたところ、周囲の人々に笑われた、という逸話も残っています。後日、その紳士の行動が多くの人に広がり、現在の雨傘につながっていった、ということです。ちなみに、日本は傘の所持数が世界1位だとか。雨傘とのつながりが深い国なのですね。

そんな雨傘ですが、先日、二重構造の傘のニュースを見ました。傘の布部分が二重になっている傘です。重さも費用も増えてしまうデメリットがありながら、なぜそのような傘が開発されたのでしょうか。それは傘メーカーに、ある要望が届いたからでした。

「雨音のしない傘がほしい。」

その要望は視覚障害のある方からのものでした。雨の日に外出した時、傘を使うと雨音で周りの音が消されるので外出が不安になる、ぜひ音のしない傘を開発してほしい、と。そこで開発されたのが二重構造にすることで大幅に雨音の軽減を図った「雨音の静かな傘」です。

視覚に障害のある方にとって、聴覚による情報はとてつもなく大きなものです。私もそのことは分かっていたつもりでしたが、雨の日の「傘」が外出の妨げになっているとまでは気づきませんでした。しかし今回、気づくよいきっかけとなりました。

気づけてみれば、「雨音の静かな傘」は視覚に障害のある方にはもちろん、他の多くの方にもメリットがあります。雨音が静かになれば、近づく自動車の音などにも気づきやすくなり、交通安全に役立ちます。また、聴覚過敏の方にとって、針で刺すように感じていた雨音の刺激が、軽減されるかもしれません。

傘はうるさくて当たり前。このような思い込みを除くことから、誰もが安心して暮らせる世の中に近づくのだと感じさせられる話でした。傘もニーズに合わせて進化しています。私たち教職員も常に子どもたちのニーズに気づき、進化し続けたいです。

12月4日から10日まで、人権週間となっています。本校では期間を延長し、12月25日までを人権週間として位置付けています。「誰にとっても居心地のよい学校づくり」を推進してまいります。

# 1年生 スーロシア動物園に行ったよ！



11月13日（月）に、スーロシア動物園に遠足に行きました。初めての遠足でしたが、ルールや自分たちで立てためあてを意識し、楽しむことができました。子どもたちはバックヤードツアーに参加し、飼育員さんから動物園の裏側の話を聞くことができました。「象のお部屋ってこんなに大きいのだね」「こんなに食べるの」と、子どもたちは興味津々でした。「遠足って楽しい。」「来年はどこに行くのかな？早く行きたい！」と、学校行事に大喜びの1年生でした。

# 2年生 「あそんで ためして くふうし」



2年生は、生活科で空き箱やペットボトルを使っておもちゃ作りをしています。箱やカップを積み上げてみました。「下の方を細いものにするとグラグラするから積むのがむずかしいな。」「射的みたいに倒していけるとおもしろそうだね。」と、おもちゃ作りにつながるよいアイデアがたくさん出ていました。作ったおもちゃは、OKフェスタで披露する予定です。どんなおもちゃが出来上がるか、楽しみです。



# 4年生 愛川体験学習



11月1日に愛川に校外体験学習に行きました。社会科の学習で扱った宮ヶ瀬ダムを実際に見て、あまりの大きさや放流の迫力に驚いていました。自分たちが普段使っている水がここからきていることを実感して、社会科の学びを深めました。服部牧場ではバター作り体験をしました。腕が疲れるくらいピンを振り、バターが出来上がる様子を楽しんで活動していました。

児童支援専任コーナー

【12月は、横浜市いじめ防止啓発月間です】

きほん  
《3つの基本ルール》

ぼうりょく NO!

パス OK!!

もちだしきんし!!!

この3つのルールは、普段の生活の中でも、大切にしたいルールです。

横浜市では、毎年、人権週間（12月の第1週目）に合わせて、いじめ防止の啓発に取り組んでいます。普段から児童の様子を見取することを心がけていますが、アンケートを実施することで、いじめのみならず、不安や悩みを抱えている児童を把握し、適切な支援につなげていきます。

右の3つの基本ルールとは、定期的に取り組んでいるYP（横浜プログラム）のルールです。YPとは、児童が安心して過ごすことができる学級風土作りのためのプログラムです。「仲間づくり」「自分づくり」「他者理解」など、各学級の実態に沿ったものを選び実施します。『暴力NOとは、自分の意見を否定されない』『持ち出し禁止とは、プログラムで友達が話していたことを誰かに伝えない』という意味です。安心して参加できることで、「友達に聴いてもらえた」「もっと仲良くなれた」などの経験を重ね、学校生活にも生かして行くことを目指しています。